

調布市社会福祉協議会の事業総括

令和6年度は、身近な生活課題の解決を目指し、地域ニーズを的確に捉えて包括的に支援する「重層的支援体制整備事業」に注力して取り組んでまいりました。

令和6年度、推進の初年度となる「第6次調布市地域福祉活動計画」は従来とは異なり、調布市が設定している8つの福祉圏域ごとに策定しています。それぞれの地域の課題や特性を活かした本計画を策定に関わってくださった住民のみなさまの参加を得て推進しました。

体制面では、すでに8圏域それぞれに地域福祉コーディネーターと地域支え合い推進員の配置が完了しています。令和6年度はこの16人がさらに有機的に連携し、地域課題へ取り組むことができるよう、統括的役割を担う職員を配置いたしました。地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員はいずれもアウトリーチを主として活動をしています。各圏域で多様な課題、複雑化した課題に取り組む中、全市的な視点から俯瞰し、マネジメントしていく必要性を感じています。令和6年度は圏域を担当しながらの兼務ではありますが、単独配置を視野に入れて体制強化を図りました。

また、コロナ禍以降、生活の立て直しが困難な状況が続いている方や、生きづらさを抱える市民からの相談が益々増加しています。調布ライフサポート、調布市子ども若者総合相談事業ここあ、障がい者地域生活支援センタードルチェ、ちょうふ地域福祉権利擁護センターなど、多様な相談窓口で、日々不安を抱える相談者一人ひとりに寄り添い、多くの関係機関と連携を図りながら、柔軟な対応を行っています。市内の精神保健福祉の中核を担う調布市こころの健康支援センターにおいても、年間の相談延件数が29,000件を超え、多くの方に必要とされている現状を再認識しました。

そのほか、地域福祉の向上を目指し、調布市市民活動支援センター、調布市希望の家、希望の家深大寺など、市民生活に密着した各種事業を展開しております。

今後も、基本理念「いつまでも住みつづけたいと思うまちづくりをめざして」を体現すべく、子どもからお年寄りまで、障がいがあってもなくても、市民のみなさまが自分らしく、心豊かに暮らせる「地域共生社会」の充実にに向けて取り組んでまいります。